

壮年会

青年会を退会後（数年42歳）から老人会（数年63歳）までは村の中堅でありながら未組織であった。地区の行事や運営に先導的な役割を組織的に開わり「豊かな村づくり」を推進する目的で、昭和五二年一月に品川政吉や松田昭夫らの発意により発足した。会員は二五名で会費は二〇〇〇円であった。

会則第三条の活動内容としては、

- 一、地区民の健康保持をはかるための諸活動
 - 二、広く社会の見聞をひろめ、青年の仲間づくりにつとめる。
 - 三、子どもの健全育成並びに交通安全教育につとめる。
 - 四、部落誌、民芸、芸能の保護伝承及びその実践活動。
 - 五、資源保護、生活の合理化をはかるための諸活動。
- を掲げた。
- 最初の取組みは新築される神明社玉垣の建設であった。総会にて費用の供面・予算・寄附などを協議している。

昭和五四年には神明社新築の記念として梅の木植樹を実施したが、現在は一本も残っていない。

芸能の保護活動としては「熱送り太鼓」の練習会を行い、ねっおくり日に実演している。

部落誌は平成六年に史料の収集に取り組んだが刊行にはいたらなかった。盛田幸男会長の時に改めて村史に取組み「ふるさと新聞」の発刊につながった。今回の「金戸村史」もその新聞が一〇〇号になったことから村史として製本化されたものである。

健康保持や仲間づくりでは、昭和六〇年から地区ソフトボールに参加している。また地区内の組対抗のソフトボール大会も実施した。ナイター綱引き大会も壮年会・青年会・婦人会・若妻会共催で行った。あの時代は麻雀が盛んであったのか壮年会も平成十四年まで行っている。またこの年はゴルフ講習会も実施している。

昭和六三年には研修会として「志賀原子力発電所」の視察に出かけている。平成五年ごろからソフトボールに変わり冬期にボーリング大会が始まったが平成二十一年続いた。

平成九年には神本美樹が大坂国体に出場するを激励する横断幕を掲示するべく懇志を募り健闘を祈った。

同年収穫感謝祭「かも鍋祭り」を開催した。

壮年会で現在も続いているものに研修会がある。昭和五六年から始まり三

〇年も 歴代会長 年度

続いて 品川政吉 S五二

第一回 品川 弘 五四

目は御 竹山豊忠 五六

母衣発 東頭外光 五八

電所発 宮塚久一 六〇

あつた。 宮本信守 六二

二回目 梅本俊雄 H元

は能登 品川三千男 三

島高州 源元光夫 五

園であ 中仙道俊孝 七

つたが、 高倉寛治 九

段々と 梅本正信 H十一

遠くは 沼崎右吾 一二

り一番 竹山武司 一三

の遠方 山崎三郎 一四

は南紀 朝日清一 一五

の勝浦 石橋友吉 一六

温泉ま 出井和洋 一七

でも出 盛田幸男 一八

かけた。 品川千寿 一九

三嶋 稔 二〇

片桐幸雄 二一

松田良信 二二

二二三